

# 心に残る文化財子供塾 益田市立匹見小学校5・6年生

## 1. 活動の概要

7月3日(水)、益田市立匹見小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。「古代人の文化に触れてみよう～土笛作りを通して見える古代人の生活～」と題して、体験活動は「土笛作り」を選択しました。土笛作りを通して、古代人の文化や生活に興味・関心を持つこと、そして、地域の歴史や遺跡を知ることを通して、地域への愛着や誇りをもつことをねらいとして実施しました。

はじめに、匹見町内にある遺跡を紹介しつつ昔の人々の暮らしについて、遺跡を発掘調査して分かったことなどから例を挙げて解説していきました。縄文時代は狩猟採集の生活を主としており、それに伴う文化的な生活の痕跡(祭祀遺跡の遺構・遺物)があったこと。弥生時代は、米つくりの生業やそれに伴う文化が移住してきた人々を中心にもたらされたことなどです。その弥生時代の文化の一つとして土笛があったこと。土笛は楽器で、音を鳴らして祭祀に用いられたと考えられることを紹介しました。土笛は丹後半島から山陰海岸、下関まで日本海側で出土例が多く、松江市タテチョウ遺跡など松江市内の遺跡から突出して多く出土していることを紹介し、体験活動として模造品の製作法をマニュアル化したことを紹介しました。

匹見町の遺跡として例に挙げたのは、匹見町紙祖元組の石ヶ坪遺跡(市指定史跡)です。『いにしへの島根ガイドブック』第4巻「くらしを探る 生業・住まい・道具」で縄文時代の生活誌のモデルとして大きく取り上げられています。また、紙祖荒木の水田ノ上遺跡(同)、半田のヨレ遺跡(同)をはじめとする祭祀遺跡から出土した数多くの集石遺構や土偶、鳥形などの遺物が出土したことを紹介して、縄文時代の祭祀についても話しました。さらに、山陰史跡ガイドブック第6巻に掲載されている道川の新楨原遺跡(県指定史跡)を紹介して、古くは旧石器時代から匹見町に人が住んでいたことを話しました。

土笛の作り方を説明して製作にとりかかれました。皆さん忠実に工程をたどりながら、作っていきました。先に土笛づくりを体験して、吹いて音も出た担当の村上先生から多くの助言がなされましたが、半分割で片方ずつ成形して再び合わせる際に形が合わず苦勞するなど、製作にはある程度の困難な状況が見られました。結局、時間内に造形はできたものの、吹いて音が鳴るところまでいった児童はいなかったようです。その後時間を経て、歌口(吹き口)の整形や調整、吹き方の工夫、乾燥を進めるなどして皆さん音が出たそうです。

この間、時間が押し詰まってからではありましたが、埋蔵文化財調査センターから借用して持ってきた縄文土器、弥生土器、須恵器の出土品を観察してもらいました。時間が少なくなり少し説明不足だったかもしれませんが、興味深く見ていただけたと思います。

## 2. 活動の様子

### 1)土笛の由来、匹見町の遺跡や昔の暮らし、文化について話を聞く



## 2)土笛作り



## 3. 子ども塾を終えて

### 1)生徒の皆さんから…

#### ○土笛作り体験

- ・土ぶえづくりのつくるところがたのしかったです。
- ・上手に作れた。
- ・いい音が出る
- ・音を鳴らすのが難しい。
- ・土笛づくりの方では、意外にかん単かと思ったけどむずかしくて、ふくのもとてもむずかしかったけど少しは音が出たから、もっと上達したいです。
- ・(土笛を作ってみて)古代人の人は天才だなと思いました。

#### ○歴史や遺跡などについて

- ・匹見から出てきた遺せきを見たい。
- ・匹見の遺せきのこともたくさんあることが知れてよかったです。
- ・いのりやまじないをするためにヨレ遺跡などを作っていることが分かりました。
- ・古代人の(人)たちもおまつりごととしていたんだなと思いました。
- ・いろんな土器やすえきがあることが分かった。
- ・どきを見たこと(が心に残った)。
- ・いせきを実際に行ってみたい。
- ・古代の人のことを体験したい。

### 2)担当の先生方から…

- ・(児童が)土笛作りを通して古代の人々に思いをはせたことはよかった。
- ・(児童)それぞれのペースで土笛を作れたことで、楽しく作れていたと思う。
- ・土笛づくりの作業は、体験的に古代の生活にふれるよい機会となった。(子どもたちの喜ぶ姿が見られた)
- ・島根県で土笛の出土が多いことは、興味をひいていた。
- ・身近な遺跡についての情報を得られた。
- ・土器を実際に見ることができた。
- ・匹見に遺跡があったことを知って、より興味が湧いたと思う。
- ・匹見の遺跡をもっと身近に感じられるように匹見のお話ももう少し詳しくされてもよかったなと思いました。
- ・(紹介された)遺跡は匹見のどのあたりか(地図・地名)がわかると、もっと身近に感じられたかもしれない。
- ・座学のときに、詳しい内容を知れた反面、難しい内容だと思ったので、簡略化した説明で

も良かった。

・事前に資料や材料をいただき、教材研究ができたことは大変ありがたかった。

### 3)埋文センターから

事前打ち合わせの段階で担当の村上先生に、土笛作りのマニュアルと粘土素材を提供して試作品の作成を依頼したところ、実施していただき、成形は手順通りすぐできるが、吹いて音が鳴るまで手直しや乾燥時間が必要だったとのことでした。ご多忙にもかかわらず、かなりな負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。

時間内に吹いて音が鳴るところまで到達できず、教室をあとにしたわけですが、その後、先生方の指導のもと、児童の皆さん各々で、手直しや乾燥など工夫がなされ、吹いて音が鳴る土笛が完成したとのことで、ありがたく思うと同時に、事後の負担をかけてしまい申し訳なく思っています。

匹見町の遺跡や、発掘調査から分かることを説明した際に、遺跡の町内での位置関係や、地理的環境、なぜ旧石器時代の古くから人々に生活の場として選ばれ、住み続けられたのか、豊かな自然環境のことなどを中心に掘り下げて伝えられたらよかったのではないかと反省しています。

ワークシートやクイズなどの導入も検討すべきだったと反省しています。